

CT 検査における看護師の役割 現状と今後の課題

A role of a nurse in Computed tomography

The present conditions and future problem

中央診療部 青木さおり 興ふじ子 矢野いつみ 矢ヶ崎智子
重野みどり 樋口いち子 広瀬葉子 降旗文香
吉澤秀美 若林万由美

要旨

CT 検査の稼働率を上げる目的で、造影のための血管を看護師が確保するようになり、CT 検査室に看護師 2 名の体制になった。看護の現状を振り返り、CT 検査の状況を把握するため検査数、看護師による血管確保数の実態調査を行った。その結果血管確保はほとんど看護師が行うようになり、検査数、稼働率はアップし、血管外漏出や副作用出現時には余裕を持って処置ができるようになった。

キーワード

CT 検査、看護の現状、看護師の役割

I はじめに

CT は US や MR と並び画像診断法の中心をなし、日常診療において重要な役割をはたしている。必要な情報を確実に、正確に、安全に検査することが重要である。

CT 検査室に看護師が 1 名配属されて 3 年が経過し、CT 検査数の増加の目的で、平成 20 年 9 月から看護師が造影のための血管を確保するようになった。翌 10 月には CT 検査の稼働率を上げるため、看護師が 1 名増員され、看護師 2 名の体制になった。その結果、検査数は増加したが、余裕をもって検査できるようになった。

今回 2 名になって 3 ヶ月が経過したので、CT 検査施行時の看護の現状と平成 20 年 9 月と看護師増員後の 12 月の CT 検査数、看護師の血管確保数、血管外漏出と副作用数の実態調査を元に今後の課題と対策の検討をしたので、ここに報告する。

II CT 検査施行時の看護の現状

CT1 台に 1 名の看護師が担当し、患者の入室から退室までの一連の過程に関わっている。CT は着衣のまま検査できるが、画像の乱れを予防するため撮影部位の金属類の取り外しを確認し、

検査台への移動介助を行う。

検査中の安楽な体位を保持する。また、CT 装置冷却のため室温を下げてあるので毛布をかけ、保温する。

造影検査の場合は同意書と腎機能を確認する。

検査を受けられる方に直接喘息の既往とアレルギーの有無を確認しているが、電子カルテに載っていない情報を得ることも少なくない。問題となる情報があれば放射線医師に提示し、対応している。現実1日5件程度この不備があり、検査の進行に障害が出ている。

造影のための血管確保をする。

高濃度の造影剤を 3ml/秒のきわめて高圧に自動注入器で注入するため、上肢のなるべく太い血管を選択している。チューブの接続を確実にする。撮影時は上肢を挙上し、造影剤流入時には触診で血管への流入を確認する。また注入中技師は、圧力リミッターで注入圧の上昇がないか確認する。医師と二人で撮影直前まで造影剤の漏れやアレルギー反応がないか観察する。

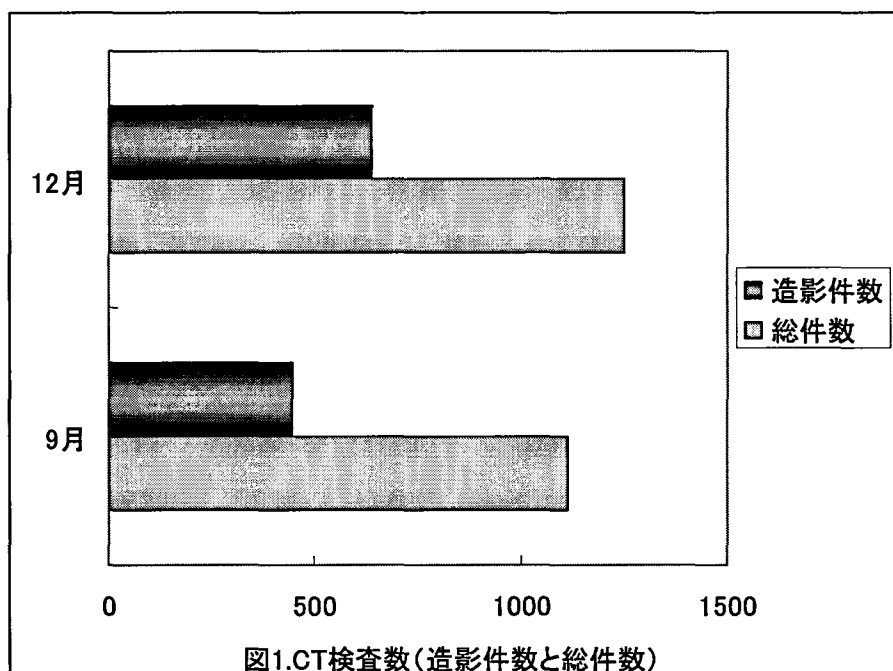
スキヤンの合間に声をかけ副作用の有無の観察を行う。

撮影終了後、再度副作用の有無を確認し、造影剤のルートの抜去を行う。帰宅後の遅発性副作用などの検査後の注意点を説明する。

Ⅲ 実態調査と状況

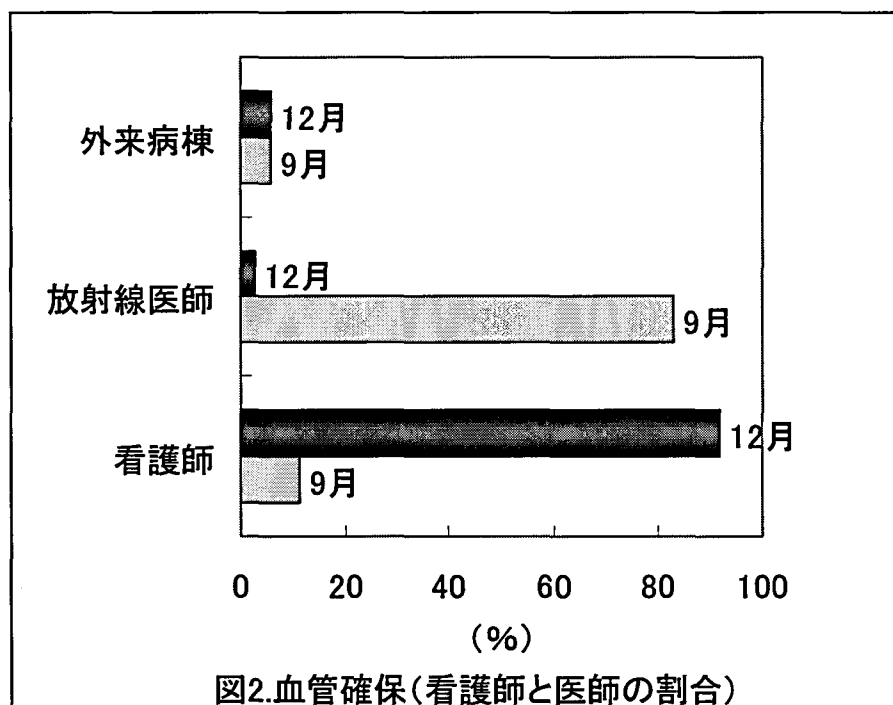
1 検査数

9月の総検査数は1114件、12月は1250件で総検査数は136件増加した。造影数は9月は444件で総検査数の40%、12月の造影数は639件で総検査数の51%であった。9月の平日1日平均検査数は53.1件、12月は61.4件で平日1日平均8件の増加になった。看護師増員と同時に単純検査枠が5件増やされ総検査数、造影検査数の割合も増えているが、予約検査は時間内に施行できている(図1)。



2 血管確保数

看護師の血管確保数は9月には開始直後のこともあり、444件中11.2%の50件だったが、12月には639件中91.7%の586件の確保ができた。看護師が一人のときは看護師は患者の移乗や抜針が中心で、血管確保はほとんど医師が行っていたといえる。血管確保困難のため医師に交代したのは12月には6件あった(図2)。



3 造影剤の血管外漏出と副作用数

9月は医師の血管確保で7件の血管外漏出があった。12月は看護師の血管確保で4件の血管外漏出があった。看護師が血管確保するようになって漏出トラブルは特に増加していない。

副作用は9月が7件、12月は10件あった。

看護師が2名になってから、血管外漏出や造影剤の副作用出現などのトラブル時、ゆとりを持ってかかわることができるようになった。また入院中の方の造影剤の漏れや副作用が出現した場合、検査後の病室訪問ができるようになった。

また、検査中造影剤の漏れやアレルギー反応があった場合には安全管理のデータベースとしてファイルメーカーに記録し、管理している。また、電子カルテにもアレルギー情報として記載し、次の検査に反映できるようになっている。

IV 今後の課題

造影剤アレルギー反応は、前回の検査で反応がなくても注意深く観察する必要がある。造影剤のリスク管理に関して、医師、技師とともにマニュアル化していく必要がある。検査中の看護には医師、技師、依頼科など多職種、他部門との連携が大きく関わってくる。看護師として他職種との連携や、他部門との協力体制の強化をし、更に安全なCT業務を目指す必要がある。

V 終わりに

看護師増員後、検査数は1ヶ月で130件以上増加し、血管確保はほとんど看護師が行うようになった。当初の検査数増加、稼働率アップという目的に看護師増員も一躍を担っていると思われる。より安全に検査を行うためにも、副作用を最小限にするリスク管理、十分な患者情報、腎機能チェックなどきちんとされている必要がある。これは医師、技師とともに共通した診療科への要望でもある。

今後更にCTの検査数が増加しても安全に検査できるよう協力し合っていきたいと思う。